

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。

めざせ、均等待遇

なくそう差別！

ユニオンは労働法裁判に勝利するぞ！

平和友好祭長崎祭典

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙・「みらい」
NO. 3763
17年6月16日(金)
・Fax 095-828-1953

おはようございます。

6月3日(土)4日(日)に時津で開催された第49回平和友好祭長崎祭典に郵政ユニオンより原田執行委員、御手洗青年部長が参加しました。



今回の平和祭の内容は主に職場の問題と平和についてでした。参加単産は長崎市職労、労金労組、佐世保水道労組、長崎県職員組合などです。

人手不足による問題で一人一人の仕事が多くなり、残業が増えるとのことでした。そして追い打ちをかけるように上司からの「定時で終わらせるように」などの圧力があり、そのことにより皆がサービス残業をしないといけないという状況になっているということです。

また、ある職場では今月の職場の残業代がオーバーしたので支払えないと上司に言われたとのことでした。

そして、人事評価が適切ではないとのことや、話していません。これは郵政でも言えることですが、ある人はボーナスが減る一方で同じ職場の仲間が人事評価によりボーナスが増えるというのは同じ仕事をしているのにおかしいと言っていました。



次に市職労の人が言っていた組合の加入数の減少についてです。市職労の方によると、組合の加入率は50%と低く、どのようにすればいいのかと

いうことを悩んでおられました。そして、加入している人でも組合活動に積極的に参加する人がいないとのことでした。確かに加入しているだけで、組合の行事にほとんど参加しない人もたくさんいます。しかし、組合員が職場環境をよくするために活動をしているので、今まで参加できていなかった人が、すこしでも協力をして力になればまた職場環境が変わるのではないかなと思います。

職場環境が変われば自分の仕事もしやすくなるので、自分自身に降りかかってくることもなので、真剣に考えることが大切だと思います。



次に講師の方が話した内容で、とある福島の郵便配達員の話がありました。なんと、11の時に地震がおきた後も配達を続け、津波を見ながら

配達をしたとのことでした。これを聞いてとても驚きました。もしかしたら津波に飲み込まれるかもしれないのに命の保証がない中で配達をするのは危険だと思いました。



今回思ったのが組合活動をもっと広げて働きやすい職場にしたいといけないなと思いました。そのためには、1人1人がもっと考えて行動をし、組合活動を広げていかないといいと思います。(御手洗)

第49回平和友好祭長崎祭典に参加して

私も6月3日から4日にかけて時津崎野自然公園で行なわれた平和友好祭に初めて参加しました。近藤和樹さんによる記念講演の「労働組合と反戦平和運動」また、山川剛さんによる講和「あの日」はどこからきたのか・8月9日の向こう側。はあらためて平和の大切さを実感しました。自主交流ではいろんな業種の

方々と職場の話しや平和について語り合う充実した時間を過ごせました。

参加者のほとんどは20代から30代の若い世代。最近ではテロや緊迫する世界情勢をニュースで見ない日はないくらい不安が広がっています。こういつた中で若い人々が平和について考える、また過去の過ちを学びその語り部として後世に伝えるのはとても大切な事だと思いました。(原田)

弾力運用の効果は？

変形労働時間制

集配部では月曜を9時間勤務、火曜を7時間勤務とするなど弾力運用を行なっている。経費削減に如何程の効果があるのかは分からないが、同業他社においても週休3日制導入の検討と言っ話もある。

労働基準法は労働時間の上限を原則として1日8時間、週40時間と定めているが、一ヶ月や一年といった一定期間の平均で週40時間を超えなければ、上限超えを認める制度。時期によって繁忙や閑散の差が大きい職場では、忙しさに応じて労働時間を変えることができる。ただし、導入には労協協定を結ぶ手続きが必要となる。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちよ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・分会の役員へ。